

会社はホーム上の安全を車掌の責任にするだけでなく 安全のための設備改善を行え！！

地本は、組合員から駅のＩＴＶ(車掌がホーム全体が見えない駅で旅客の乗降を見るためのモニターＴＶ)が見つらいという意見を受け各線区の実態を調査しました。調査結果を受け5月11日に改善を申し入れ、8月2日に業務委員会で回答を受けました。

会社はホーム上の安全で事象が発生すると日勤教育、駅への配転など責任を乗務員に押しつけてきました。一方、車掌が伝える改善の意見には耳を傾けることはあまりありませんでした。

東海道線金山駅・中央線春日井駅のＩＴＶ交換へ

今回の申し入れで、会社は特に見にくいと言われていた東海道線金山駅・中央線春日井駅のＩＴＶを「今年度に交換交換する予定である」と回答しました。この両駅のＩＴＶは複数のカメラの映像が分割して映し出されるものでした。小さな画面にさらに小さな映像で大変見にくいものでした。

昔は、ほとんどの駅で運転主任が配置されていました。この要員が効率化の名の下で廃止される一方、ホーム上の安全確保への厳しさは増してきているのが現状です。



会社は現場の意見を封殺せず、耳を傾けろ！

9月1日規程の改正が行われ「金山駅上り8両以上の列車では、発車の際に運転士が見える範囲での旅客の乗降確認の合図を車掌に送ること」が規程に明文化されました。

この取り扱いは列車遅延の要因にもなるし大変面倒くさいものです。しかし、ＩＴＶが見つらいという現場の意見がやっと会社に届いた証左でもあります。事なかれ主義の管理者及び課員に反省を促すものです。

また、中央線定光寺駅での乗降確認は東海労の要求（地本申第10号の要求）通り中止されることになりました。

これからもJR東海労は小さな職場の意見にも耳を傾け改善を勝ち取ります！